

コロナウイルスはどこから来たか？

加藤 茂孝

2019年暮れに出現した新型コロナウイルスは、世界中に流行拡大し、史上初めて世界同時パンデミックになった。ヒトのコロナウイルスは現在まで7種類が発見されているが、7種類の内4種類が風邪コロナウイルスである。残り3種類が重症の肺炎を起こすコロナウイルスであり、2002年暮れのSARSが最初である。判明している限り全てコウモリ由来である。SARSは中国広州でコウモリから（おそらくハクビシンなどを經由して）ヒトに広がったが半年で終息し、それ以降出現し

ていない。2012年のMERSはコウモリからラクダを經由してヒトに広がったが、ラクダが住む中東地域にほとんど限られている。このCOVID-19のみが例外的にグローバルパンデミックになった。中国武漢でコウモリから（ほかの動物を經由したかもしれないが）ヒトに広がった。COVID-19出現の背景を考察する。

（第55回日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・
日本医史学会9月例会 合同例会）

温泉と医学： 歴史上の人物のかくし湯についての検索と その医学的適応についての考察

稲森 正彦

日本人の入浴という行為は、世界的に見れば、独特なものである。それには我が国の、文化、気候および温泉などの環境が密接に関連してきたと考えられる。特に温泉については、古来より医学的な意味づけがされることも多く、現在でも多くの場所で効能の表示がなされている。一例を挙げると、炭酸泉を飲泉することについて、三澤ら（炭酸泉誌1999）により慢性胃カタル、特に胃酸減少症、胃弛緩症、胃痛、悪心等のある患者などが適応症として、逆に胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃酸過多症などが禁忌症として挙げられている。

温泉の中で、とくに「かくし湯」と呼ばれると

ころがある。1例として、神奈川の地には、戦国武将のかくし湯であったという言い伝えを持つところがある。この場所で歴史上の人物が何を求めて入浴していたか、今となっては手掛かりが少ないが、中には医学的な適応を期待していた場合も多いのではないかと推察する。

本発表では、かくし湯をキーワードに検索を行い、歴史-温泉-医学を繋ぐ知見について、現在の我が国における温泉-医学の研究の現状を踏まえ報告したい。

（第55回日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・
日本医史学会9月例会 合同例会）